

# 特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラーズ 定款

## 第1章 総則

### 第1条 (名称)

この法人は、特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラーズという。

### 第2条 (事務所)

この法人は、主たる事務所を愛知県名古屋市中千種区東山通五丁目108番地に置く。

## 第2章 目的及び事業

### 第3条 (目的)

この法人は、若者その他多様な人々の自立的な学び、実践、地域参加及び共創活動を支援し、その成長を促すとともに、都市と地域との循環を通じた関係人口の創出、観光資源、空き家その他の地域資源を活用した実践の機会の提供並びに農山漁村及び中山間地域を含む地域社会における多世代の交流及び相互支援の促進を通じて、持続可能な地域社会の形成に寄与することを目的とする。

### 第4条 (特定非営利活動の種類)

この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- 社会教育の推進を図る活動
- まちづくりの推進を図る活動
- 子どもの健全育成を図る活動
- 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- 観光の振興を図る活動
- 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

### 第5条 (事業)

この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- 地方創生事業
- 場づくり交流支援事業

## 第3章 会員

### 第6条 (種別)

この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法上の社員とする。

- 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人又は団体
- 特別会員 この法人の目的に賛同し、専門的知識又は経験をもって当法人の活動に特別の貢献を行う個人又は団体

### 第7条 (入会)

会員として入会しようとするものは、この法人の目的に賛同し、この定款その他この法人の規程を遵守することを要する。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申込みがあったときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、前項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。
- 5 暴力団その他反社会的勢力に該当する者は、会員となることができない。

#### 第8条（入会金及び会費）

会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

#### 第9条（会員の資格の喪失）

会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

#### 第10条（退会）

会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

#### 第11条（除名）

会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款等に違反したとき。
  - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は口的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

#### 第12条（拠出金品の不返還）

既納の入会金、会費及びその他の拠出金品は、返還しない。

### 第4章 役員及び職員

#### 第13条（種別及び定数）

この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
  - (2) 監事 1人以上
- 2 理事のうち、1人を理事長、1人を副理事長とする。

#### 第14条（選任等）

理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

#### 第15条（職務）

理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

#### 第16条（任期等）

役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を延長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、第13条第1項に定める最少の役員数を欠く場合には、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

#### 第17条（欠員補充）

理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

#### 第18条（解任）

役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。

(1) 職務の執行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとするときは、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

#### 第19条（報酬等）

役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

#### 第20条（職員）

この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。

2 職員は、理事長が任免する。

## 第5章 総会

#### 第21条（種別）

この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

## 第22条（構成）

総会は、正会員をもって構成する。

## 第23条（権能）

総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 人会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ。）  
その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

## 第24条（開催）

通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

## 第25条（招集）

総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

## 第26条（議長）

総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

## 第27条（定足数）

総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

## 第28条（議決）

総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

## 第 29 条（表決権等）

各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第 27 条、第 28 条第 2 項、第 30 条第 1 項第 2 号及び第 49 条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

## 第 30 条（議事録）

総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 口時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的記録による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

(3) 密議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名又は記名・押印しなければならない。

3 前 2 項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 社員総会の決議があったとみなされた事項の内容

(2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

(3) 社員総会の決議があったものとみなされた日

(4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第 6 章 理事会

### 第 31 条（構成）

理事会は、理事をもって構成する。

### 第 32 条（権能）

理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

### 第 33 条（開催）

理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事長が必要と認めたとき。

(2) 理事から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法をもって招集の請求があったとき。

(3) 第 15 条第 4 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

### 第 34 条（招集）

理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

#### 第35条（議長）

理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

#### 第36条（議決）

理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### 第37条（表決権等）

各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

#### 第38条（議事録）

理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的記録による表決者にあつては、その旨を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名又は記名・押印しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

#### 第39条（資産の構成）

この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 人会金及び会費

(3) 寄附金品

(4) 財産から生じる収益

(5) 事業に伴う収益

(6) その他の収益

#### 第40条（資産の管理）

この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

#### 第 41 条（会計の原則）

この法人の会計は、特定非営利活動促進法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

#### 第 42 条（事業年度）

この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

#### 第 43 条（事業計画及び予算）

この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

#### 第 44 条（暫定予算）

前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

#### 第 45 条（予備費の設定及び使用）

予算超過又は予算外の費用に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

#### 第 46 条（予算の追加及び更正）

予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

#### 第 47 条（事業報告及び決算）

この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

#### 第 48 条（臨機の措置）

予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

### 第 8 章 定款の変更、解散及び合併

#### 第 49 条（定款の変更）

この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、特定非営利活動促進法第 25 条第 3 項に規定する事項については所轄庁の認証を得なければならない。

#### 第 50 条（解散）

この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

## 第 51 条（残余財産の帰属）

この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、特定非営利活動促進法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、解散時の総会において議決したものに譲渡するものとする。

## 第 52 条（合併）

この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

# 第 9 章 公告の方法

## 第 53 条（公告の方法）

この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、特定非営利活動促進法第 28 条の 2 第 1 項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府 NPO 法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

# 第 10 章 雑則

## 第 54 条（細則）

この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。  
理事長 寺本俊孝  
副理事長 奥山寧子  
理事 史兆涵  
監事 玉山将
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から最初の通常総会終結時までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度は、第 42 条の規定にかかわらず、成立の日から最初の 3 月 31 日までとする。
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第 43 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
  - (1) 正会員 入会金 3,000 円 年会費 6,000 円
  - (2) 賛助会員（個人） 入会金 0 円 年会費 10,000 円
  - (3) 賛助会員（団体） 入会金 0 円 年会費 30,000 円
  - (4) 特別会員 入会金 0 円 年会費 0 円

役員名簿

特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラーズ

役名	フリガナ 氏名	住所又は居所	報酬の有無
理事	テラモトトシタカ 寺木 俊孝		無
理事	オクヤマヤスコ 奥山 寧子		無
理事	シ カズヒロ 史 兆涵		無
監事	タマダ マサル 玉田 将		無

## 設 立 趣 旨 書

### 1 趣 旨

近年、地域社会においては、人口減少、高齢化、担い手不足、地域コミュニティの希薄化、空き家の増加等、複合的な課題が顕在化している。とりわけ、農山漁村及び中山間地域においては、地域の担い手不足や交流人口の減少が進み、地域資源を活かした新たな関係づくりや実践の機会の創出が求められている。

一方で、都市部においても、若者が自ら考え、行動し、多様な人々と関わりながら学び成長する実践の機会は、必ずしも十分に整っているとはいえない。若者が地域に入り、地域課題や地域資源に触れ、自立的に企画し、他者と共創しながら経験を積むことは、本人の成長のみならず、地域社会に新たな活力をもたらすものである。

設立者らはこれまで、都市と地域をつなぐ活動を通じ、若者の地域参加、越境学習、共創活動の支援、観光資源や空き家その他の地域資源を活用した交流及び実践の場づくり、農山漁村及び中山間地域を含む各地との協働企画等に取り組んできた。その過程において、都市と地域との循環を通じて関係人口を創出し、若者が自立的に活動しながら地域と継続的に関わる仕組みを整えることの重要性を強く認識するに至った。

また、地域における持続可能な社会の形成のためには、若者の成長機会の創出にとどまらず、多世代が交流し、相互に支え合い、地域住民が安心して暮らし続けることができる基盤づくりも重要である。観光資源、空き家その他の地域資源を活用した実践の場づくりや、地域住民同士のつながりの再生は、そのための有効な手段である。

このような認識のもと、若者その他多様な人々の自立的な学び、実践、地域参加及び共創活動を支援し、その成長を促すとともに、都市と地域との循環を通じた関係人口の創出、観光資源、空き家その他の地域資源を活用した実践の機会の提供並びに農山漁村及び中山間地域を含む地域社会における多世代の交流及び相互支援の促進を図り、もって持続可能な地域社会の形成に寄与することを目的として、特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラーズを設立するものである。

### 2 申請に至るまでの経過

設立者らは、都市と地域との循環を通じた関係人口の創出、若者の自立的活動の支援、空き家その他の地域資源を活用した実践の場づくりに関する活動について検討を重ね、特定非営利活動法人として継続的かつ適正に事業を実施する必要があるとの認識に至った。

そこで、令和8年1月頃から、法人設立に向けて設立趣旨、定款、事業計画及び活動予算等の検討を進めるとともに、設立時社員及び役員候補者との協議を行った。その後、設立総会を開催して、法人設立の意思を確認し、定款、設立当初の事業計画、活動予算、役員の選任その他必要事項について決議したため、ここに特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラースの設立認証を申請するものである。

令和8年4月12日

特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラース

設立代表者

氏名 寺本俊孝

特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラース  
令和8年度事業計画書

1 事業実施の方針

本法人は、設立当初の事業年度において、若者が地域に関わり、自ら企画し、多様な主体と協働しながら学び成長する機会を提供することを重点方針として事業を実施する。あわせて、都市部の若者、教育機関、企業その他の多様な主体と、各地域に存在する実践の場とを接続する基盤づくりを進め、都市と地域との循環による関係人口の創出に資する取組を行う。

また、空き家、公共施設その他の地域資源を活用し、交流、学習及び実践の場づくりを進めるとともに、多世代交流及び地域社会における相互支援の促進に資する取組を行う。

2 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施予定H時 (B) 当該事業の 実施予定場所 (C) 従事者の 予定人数	(D) 受益対象者 の範囲 (E) 予定人数	事業費の 予算額
(1) 地方創生事業	若者が地域課題や地域資源に触れ、自ら企画し、地域住民、自治体、教育機関、企業その他の関係者と協働しながら学び成長する機会を提供するとともに、都市と地域との循環を通じた関係人口の創出及び地方創生に資する研究、交流、企画立案、実践活動等を行う。	(A) 通年  (B) 名古屋市、京都市、彦根市、近江八幡市、新城市、岡崎市、宝塚市、三原市、神石高原町他  (C) 5人	(D) 若者、学生、若手社会人、地域住民、自治体関係者その他関係者  (E) 延べ300人	80千円
(2) 場づくり交流支援事業	空き家、公共施設、観光資源その他の地域資源を活用し、若者の交	(A) 通年  (B) 名古屋市、京都市、彦根市、三	(D) 若者、地域住民、来訪者その他一般市民	20千円

	<p>流、学習及び実践の場、多世代交流の場並びに地域との接点となる機会を創出するため、調査検討、試行的活用、企画運営、イベント等を行う。</p>	<p>原市、高松市、福岡市、弘前市他  (C)5人</p>	<p>(E) 延べ 250 人</p>	
--	--	---------------------------------------	---------------------	--

特定非営利活動法人ブライト・エニー・カラース  
令和9年度事業計画書

1 事業実施の方針

本法人は、翌事業年度において、設立当初の事業年度に構築した基盤を踏まえ、若者が地域に関わり、自ら企画し、多様な主体と協働しながら学び成長する機会の充実を図ることを重点として事業を実施する。

また、都市部の若者、教育機関、企業その他の多様な主体と各地域との連携を深め、都市と地域との循環による関係人口の創出に資する取組を継続的に進める。

さらに、空き家、公共施設その他の地域資源を活用した交流、学習及び実践の場づくりを進めるとともに、多世代交流及び地域社会における相互支援の促進に資する取組を実施し、持続的な運営体制の整備を図る。

2 特定非営利活動に係る事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施予定日時 (B)当該事業の 実施予定場所 (C)従事者の 予定人数	(D)受益対象者 の範囲 (E)予定人数	事業費の 予算額
(1) 地方創生 事業	若者が地域課題や地域資源に触れ、自ら企画し、地域住民、自治体、教育機関、企業その他の関係者と協働しながら学び成長する機会を提供するとともに、都市と地域との循環を通じた関係人口の創出及び地方創生に資する研究、交流、企画立案、実践活動等を行う。	(A) 通年  (B) 名古屋市、京都市、彦根市、近江八幡市、新城市、岡崎市、宝塚市、三原市、神石高原町他  (C) 5人	(D) 若者、学生、若手社会人、地域住民、自治体関係者その他関係者  (E) 延べ350人	90千円
(2) 場づくり 交流支援事業	空き家、公共施設、観光資源その他の地域資源を活用し、若者の交流、	(A) 通年  (B) 名古屋市、京都市、彦根市、三	(D) 若者、地域住民、来訪者その他一般市民	30千円

	学習及び実践の場、多世代交流の場並びに地域との接点となる機会を創出するため、調査検討、試行的活用、企画運営、イベント等を行う。	原市、高松市、福岡市、弘前市他  (C)5人	(E) 延べ280人	
--	---	------------------------------	------------	--

## 活動予算書

法人成立の日から 令和9年3月31日まで

(単位:円)

<b>I 経常収益</b>			
<b>1. 受取会費</b>			
正会員受取入会金	30,000		
賛助会員受取入会金	0		
正会員受取会費	60,000		
賛助会員受取会費	80,000	170,000	
<b>2. 受取寄附金</b>			
受取寄附金	0	0	
<b>3. 受取助成金等</b>			
受取助成金	0	0	
<b>4. 事業収益</b>			
地方創生事業収益	0		
場づくり交流支援事業収益	0		
<b>5. その他収益</b>			
受取利息	0		
雑収益	0	0	
<b>経常収益計</b>			170,000
<b>II 経常費用</b>			
<b>1. 事業費</b>			
<b>(1) 人件費</b>			
給料手当	0		
法定福利費	0		
<b>人件費計</b>	<b>0</b>		
<b>(2) その他経費</b>			
諸謝金	0		
支払手数料	5,000		
会議費	20,000		
旅費交通費	60,000		
通信運搬費	10,000		
消耗品費	0		
雑費	5,000		
<b>その他経費計</b>	<b>100,000</b>		
<b>事業費計</b>		100,000	
<b>2. 管理費</b>			
<b>(1) 人件費</b>			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
<b>人件費計</b>	<b>0</b>		
<b>(2) その他経費</b>			
諸謝金	0		
支払手数料	5,000		
会議費	0		
旅費交通費	0		
通信運搬費	5,000		
消耗品費	5,000		
水道光熱費	0		
貸借料	0		
保険料	0		
租税公課	0		
雑費	5,000		
<b>その他経費計</b>	<b>20,000</b>		
<b>管理費計</b>		20,000	
<b>経常費用計</b>			120,000
<b>当期正味財産増減額</b>			50,000
<b>設立時正味財産額</b>			0
<b>次期繰越正味財産額</b>			50,000

## 活動予算書

令和9年4月1日 から 令和10年3月31日 まで

(単位:円)

<b>I 経常収益</b>			
<b>1. 受取会費</b>			
正会員受取入会金	0		
賛助会員受取入会金	0		
正会員受取会費	60,000		
賛助会員受取会費	80,000	140,000	
<b>2. 受取寄附金</b>			
受取寄附金	0	0	
<b>3. 受取助成金等</b>			
受取助成金	0	0	
<b>4. 事業収益</b>			
地方創生事業収益	0		
場づくり交流支援事業収益	0		
<b>5. その他収益</b>			
受取利息	0		
雑収益	0	0	
<b>経常収益計</b>			140,000
<b>II 経常費用</b>			
<b>1. 事業費</b>			
<b>(1) 人件費</b>			
給料手当	0		
法定福利費	0		
<b>人件費計</b>	<b>0</b>		
<b>(2) その他経費</b>			
諸謝金			
支払手数料	10,000		
会議費	10,000		
旅費交通費	70,000		
通信運搬費	10,000		
消耗品費	10,000		
雑費	10,000		
<b>その他経費計</b>	<b>120,000</b>		
<b>事業費計</b>		120,000	
<b>2. 管理費</b>			
<b>(1) 人件費</b>			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
<b>人件費計</b>	<b>0</b>		
<b>(2) その他経費</b>			
諸謝金	0		
支払手数料	5,000		
会議費	0		
旅費交通費	0		
通信運搬費	5,000		
消耗品費	5,000		
水道光熱費	0		
貸借料	0		
保険料	0		
租税公課	0		
雑費	5,000		
<b>その他経費計</b>	<b>20,000</b>		
<b>管理費計</b>		20,000	
<b>経常費用計</b>			140,000
<b>当期正味財産増減額</b>			0
<b>前期繰越正味財産額</b>			50,000
<b>次期繰越正味財産額</b>			50,000